

令和8年度第1回総合教育会議 出席者名簿

開催日 令和8年6月17日(水曜日)

時 間 午前9時22分から午前11時15分まで

場 所 人穴小学校

○ 次第

1 開会

市長挨拶

2 議題

(1) 業務量管理・健康確保措置実施計画の実施について

(2) 過小規模校の支援状況について

3 閉会

○ 出席者

須 藤 秀 忠 市 長

望 月 俊 伸 教育長

興 水 まゆみ 委 員

藤 田 泰 秀 委 員

関 根 淑 絵 委 員

深 澤 信 隆 委 員

○ 欠席者

なし

○ 説明のための出席者

佐 野 浩 市 教育部長

遠 藤 伸 昭 教育総務課長

齋 藤 治 学校教育課長

小 林 美 幸 学校教育課参事

須 藤 宏一郎 人穴小学校長

杉 山 由起子 学校教育課主幹兼指導係長

○ 当局からの出席者

市 川 祐 介 企画戦略課長

田 代 教 和 企画戦略課企画調整係長

○ 事務局職員出席者

植 松 弘 美 教育総務課主幹兼総務係長 安 藤 昌 輝 教育総務課総務係主査

佐 野 航 佑 教育総務課総務係主事

1 開 会 午前9時22分

発 言 者	内 容 （ 要 旨 ）
教育総務課長	ただいまから令和8年度第1回富士宮市総合教育会議を開催いたします。

市長挨拶

発 言 者	内 容 （ 要 旨 ）
教育総務課長	初めに、総合教育会議の主催者であります須藤秀忠富士宮市長から御挨拶をお願いいたします。
市長	改めまして、皆さんおはようございます。本日は、総合教育会議に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。 本日の会議は、議題が2点です。まず1点目は、教職員の働き方改革として、業務量管理・健康確保措置実施計画の実施について、2点目は、過小規模校の支援状況についてであります。本日の2つ目の議題であります過小規模校の支援状況については、全校児童20人の人穴小学校を見学させていただきます。人穴小学校は、今年度から小規模特認校制度を利用して、6人の児童が通われているとのことですので、その児童の様子や複式学級のある小学校の授業の様子を拝見し、今後の学校の在り方について共通理解を図りたいと思います。 以上、簡単ではありますが、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。
教育総務課長	ありがとうございました。 それでは、早速議事に入ります。ここからの議事進行につきましては、須藤市長、よろしくお願いいたします。

2 議 題

(1) 業務量管理・健康確保措置実施計画の実施について

発 言 者	内 容 （ 要 旨 ）
市長	それでは、次第に基づきまして議事を進行いたします。 議題1、教職員の働き方改革として、業務量管理・健康確保措置実施計画の実施についてであります。 学校教育課から説明をお願いします。では、お願いします。
学校教育課長	それでは、よろしくお願いいたします。今年度からスタートいたしました富士宮市立小中学校教職員の業務量管理・健康確保措置実施計画についてご説明申し上げます。 本日は、別冊でご用意をさせていただいております。まず初めに、本計画の背景でございます。学校は、こどもたちが学び成長する大切な場所であり、そ

	の教育を支えているのは、日々子どもと向き合う教職員です。教職員が心身ともに健康でやりがいを持って働くことが子どもたちの学びの質の向上につながります。しかしながら、近年、教育課題の多様化により、学校や教職員の業務は拡大、複雑化し、本来注力すべき授業や子どもを理解に十分な時間を確保することが難しくなっている現状がございます。こうした状況を踏まえ、本市では、これまでも働き方改革に取り組んでまいりましたが、今回改めて計画に取り組むため、本計画を策定したものでございます。 2ページを御覧ください。次に、本市の現状について申し上げます。これまでの取組により、時間外在校等時間は減少傾向にあります。例えば小学校では月平均40時間から32時間程度へ、中学校でも47時間から40時間程度へ改善しております。一方で、依然として月45時間を超える教職員や、特に教頭など長時間勤務となりやすい職種も見られ、さらなる改善が必要な状況でございます。そこで、本計画では明確な目標を設定しております。まず、時間の面では、月45時間以下、年間平均30時間程度とすることを目指しています。加えて働きやすさの面では、年次有給休暇の取得日数を10日以上に、また教職員が授業にやりがいを感じ、生き生きと働けている状態を100%とすることを目指しております。 次に、3ページを御覧ください。具体的な取組についてでございます。本計画の大きな柱は、業務の見直しでございます。文部科学省が示す業務の3分類を踏まえ、業務を①、学校以外が担うべきもの、②、教師以外が参画すべきもの、③、教師の業務だが、負担軽減が必要なものに整理し、それぞれ改善を進めてまいります。例えば地域にお願いできるものとしては、通学路の見守りや昼休み等の見守りなどについて地域や保護者の協力をさらに進めてまいります。また、教職員以外の力を活用するものとしては、部活動の地域展開や施設管理の効率化などを進めます。さらに、教師が担う業務についても、AIの活用による授業準備の効率化や学校行事の精選などにより、負担軽減を図ります。あわせて、学校内部の改善として、会議の精選や校務分掌の見直し、電話対応の工夫など、日常業務の見直しを進めます。電話対応の工夫に関しましては、5ページにも本計画の中に示させていただき、上から3つ目のポツですが、保護者等から過剰な苦情や不当な要求から教職員を守るため、令和8年度から順次市内全小中学校の電話機に最初に録音の了解を得るための音声メッセージが流れる機能を設置するということで、これにつきましては早速先行導入ということで、6月8日からは富士宮市立西小学校の電話機において録音告知のメッセージが流れるような設定をしております。具体的には、こちらは富士宮市立西小学校です。本校では、通話内容を正確に確認し、より丁寧な対応を行うた
--	---

	め、普通は録音させていただいておりますというようなメッセージが最初に流れるようになります。今後、小学校4校、中学校2校が導入される予定でございます。 次に、5ページを御覧ください。健康確保の取組でございます。長時間勤務者に対する医師面接の促進や勤務間インターバルの確保、ストレスチェックの活用などにより、教職員の心身の健康を守る体制を整えます。また、学校閉庁日の設定や休暇取得の促進など、働き方そのものの改善に取り組んでまいります。 最後に、今後の進め方です。取組の状況は、毎年度確認し、時間外在校等時間の状況を公表するとともに、本会議においても報告してまいります。必要に応じて学校への支援の見直しを行い、着実に改善を進めてまいります。本計画は、単なる労働時間削減ではなく、教職員がこどもと向き合う時間を確保し、教育の質を高めるためのものでございます。その実現のために、学校だけでなく、家庭、地域、そして市長部局との連携が不可欠でございます。引き続き、本市のこどもたちのよりよい学びの実現に向け、ご理解とご協力をお願い申し上げます。 以上で説明を終わります。 ありがとうございました。 事務局からの説明は終わりました。 教育委員の皆様、ご質問やご意見等をお願いいたします。
市長 教育委員	今日は人穴小学校で総合教育会議ということで、まず車から降り立って、爽やかな空気と環境整備の本当にすばらしさに感動しているところ、久しぶりに人穴小学校に来たのですが、こんな場所で会議ができるのは幸せだなというふうに思っています。 孔子の言葉に衣食足りて礼節を知るということわざがあるのですが、環境によって人間の教育がやはりとても大事だという言葉なのですが、こういった目に見えないこどもへの支援の場というのもすごく大事だなというふうに思っています。教育職にいますと、学校が小さいからとか大きいからとか規模にかかわらず、教員というのは本当に一人一人のこどものためによりよい教育をなし得たいという思いで一身に働くものですから、やはりその大変さ、目に見えないところでいろんなご苦労があるのだろうなというふうに思っていますが、本当に環境整備一つとっても充実した教育がなされているのだろうなというふうに推察しながらお話を今日伺うことができるかなというふうに思っています。 今ご説明いただきましたが、月曜日の定例教育委員会の中でも支援員配置等の説明を学校教育課参事さんからお話をいただいて、本当に本市、富士宮市で

市長 教育委員	は手厚い行政支援がなされているなということで心から感謝をしています。今、学校教育課長から市長部局との連携というお言葉もいただきましたが、本当に大切な支援であると。本来は教師が行うべき仕事であるけれども、そこに手が入っている支援をしてくださるということが子どもにとっても教員にとっても非常にありがたいことであると。人は人で育てるというふうに言いますので、A I 等も発達してきて、これからますますというお声もあるところなのですが、培ってきた教育の内容と質を本市は確保しながらの改革というのは、働き方改革等含めて非常に難しいところではないかなというふうに感じています。一番大事なのは、やはり人材の確保、それから人材をいかに柔軟に配置していくかというところに尽きるのかなというふうに私は思っています。今後大きな課題としては、こどもの数は減っていくのですが、こども一人一人の教育に対する対応の深さというのは限りがないので、本当に温かな言葉の中でこどもを育てるという環境をいかにつくっていくかという点で、やはりこれでいい、この人数でよいということはないと思いますので、皆さんに知恵を絞って人材の確保をしていただけたらうれしいなというふうに思っています。 市役所の職員を見ても、やはり育休だとか産休だとかお取りになって若い方が安心してお仕事ができる環境は、学校もそうなのですが、人手があるかないかに大きく関わってくるかと思いますので、また私たちみんなで力を合わせてそんなことも大きな視点として考えていけるとよいかなというふうに感じています。 以上です。 ありがとうございました。 続きましてお願いします。 本日は、このような会議を設定していただきましてありがとうございます。まず車から降り立って、空気の爽やかさに感動したところであります。そういう意味では、小規模特認校のうたい文句に空気のきれいな学校というフレーズもいいのではないかなというふうに思ったところです。今回の計画につきましては、文科省の指導により、各自治体で策定することということで進められているものと理解しております。その中で、先般も話ありましたが、先生方の現状の中で教頭先生の拘束時間が非常に長いということで、ある意味一定の規定を超えるような状況が長年放置されてきているということについて話がありました。私も特にお願いしたわけですが、当市の計画については、そこにちょっとスポットを当てた形で、教頭先生の働き方改革に関わることを何項目か中に入れていただいています。非常にありがたいといえますか、時にかなっているだろうというふうに思います。特に学校運営の様々な様子が多様化する中で、
-----------------------	--

市長 教育委員	例えば地域の問題だったり、あるいはコミュニティ・スクールだったり、あるいは市、教育委員会との関係だったり、様々なことについて教頭先生が一手にそれを引き受ける最初の窓口になるといったようなことが考えられておりまして、様々な形での省力化といいますか、あるいは合理化といいますか、工夫をしていく必要があるでしょうけれども、具体的にそれを計画の中でも教頭先生の在校時間を実際に縮めていく具体的な数字だったり、あるいは有給休暇の取得日数を教頭先生に絞ってスポットを当てた努力目標を挙げてもらっているというようなことについて大変優れた計画なのだろうというふうに考えています。 先ほど学校教育課長のほうから説明ありましたが、電話のメッセージなんかも全くそうで、苦情といいますか、様々な要求を受け入れるだけで膨大な量になっているのだろうというふうに思いまして、そういった点で先生方は全般、その中でも教頭先生にそこが負担かかっているというふうに思われるところをそれを解決しようということで話がありました。ちょっと遅きに失したかなという気がしているのですけれども、その辺についてもこれから進めていくのは非常にいいことだと思います。なお、具体的な内容を聞いて思うのは、録音させていただきますの後に、氏名等連絡先を伝えた上でご意見を伺いたいというようなことを入れたらどうかというふうにも思いましたので、まだ始めたばかりですからこれからいろいろ工夫していつていただきたいと思います。 特にその他で特別支援教育相談員の拡充を4ページに挙げていただいています。これは定例教育会議でも話をさせてもらいましたが、富士宮市の場合は市費による支援員の配置ということで、他市よりも優れた形で、市町村の裁量として予算を取っていただいたということで承知しています。今後、これは大切な富士宮市の教育の特徴となりますので、これからもぜひ市長部局のご支援をお願いしたいというふうに思っています。 以上です。 ありがとうございました。 続きましてお願いします。 お願いします。皆さんおっしゃったのと同じように、私もここに降り立って空気のきれいさと、あと緑のきれいさに感動しました。ふだん道路を走って横切ることにはあるのですけれども、実際に中に入ったのは初めてでしたので、とてもいい環境のところだなというふうに思いました。 今回のこの業務量管理・健康確保措置実施計画ということで拝見させていただいて、先ほども教育委員もおっしゃったように、教頭先生の業務量がかなり多いということがやはり気になりまして、この業務の3分類の中で、学校以
-----------------------	--

市長 教育委員	外が担うべき業務というところで大きく変化をつけられることができるのではないのかなというふうに感じています。今、中学校の部活動なんかも地域展開に向けて協議を重ねているところですので、そういったところで業務全体が動いていくといいのかなというふうに感じています。 それから、本当に取り巻く環境が大きく変化する中で、やはりいろんな部分でアップデートをしていかなければいけない時代なのかなというふうに感じています。当たり前にあったものを変えていくということは、かなり労力が必要なことだとは思いますが、本市が掲げているウェルビーイングの向上というところで、やはり子どもたち一人一人、それから先生方もそういったところを目指すために大きく踏み出してほしいなというふうに思っています。子育てをしている保護者の方々も先生方も子どもたちのためにひたむきに頑張っていってほしいと思いますので、最後の終わりにこのところの文章を読ませていただいたときに、子どもたちのために皆が同じ気持ちを持って教育に関わっていただけたらとても素晴らしいことだなというふうに感じました。 以上です。 ありがとうございました。 続きまして、お願いします。 よろしくお願いいたします。委員の皆さんおっしゃるとおり、私も今日、人穴小学校に来ることをとても楽しみにしておりまして、ちょっと時間よりも早く到着し、グラウンドを見させていただきました。とてもきれいな芝の中に、また裏のほうには多分子どもたちが植えたサツマの苗がありまして、自然豊かな学校で日々子どもたちが幸せに学んでいることをよく見ることができました。そういう中でも学校というものが、先生方が子どもに向き合う時間、それが一番大事だと思っています。今日もご説明いただきました働き方改革、これは一般企業でも重要ポイントになっていまして、企業の存続があるかないか、そういう大きな問題です。学校において、今この取組をするということは大変重要なことですし、また教頭先生に特化して、その改革を進めていくというのも効果が大変顕著に出てくると思います。 今後については、これはあくまでも一般社会、会社のやり方なのですが、働き方というよりも毎日の仕事内容をリサーチする。そこから何かを見出していって、効率よく時間短縮できるかどうかを検討するというのが普通の会社のやり方なのですが、もしそれが学校にも取り入れることができるのであればぜひそうしていただきたいと思います。 仕事の見直しというお話をお聞きしたのですが、仕事の見直し、イコール仕事の分散化、もしくは仕事の廃止をしていかなければならないかなと個人的に
-----------------------	---

	は考えています。今まで続けてきた仕事を見直すということはできるのですが、それをほかの部署、ほかの方に振り分けるというのはなかなか大変なことで、ましてや仕事を辞めるということも、これもまた大変なことになりますが、それをやっていかなければ仕事の改善というのにつながってこないと思いますので、ぜひそういう取組もご検討していただければ幸いです。 以上です。
市長	ありがとうございました。今、4人の委員さんからいろんなご意見を伺ったわけですが、一通り回っただけであって、まだまだ話し足りないことがたくさんあるのではないかと思います。どうぞ自由に意見は述べていただいて、そして至らないこともどんどん言っていただければありがたいと思います。
教育委員	4ページに、学校における、一番下ですね、措置の推進という項目があるのです。もうこれ今年実施してくださったのですよね。入学式が少しゆとりを持って遅くスタートした市内の学校の様子を見ていて、真に必要な時数となるように設定をしてくださって、そういった取組が実際に行われていると。なかなか難しいなと思うのは、もう一つの丸ポツのほうで学校行事等の教育活動の見直しということで、実はカリキュラムマネジメント、そこに書いてあるように、身につけたい資質能力につながっているかという視点で、いま一度きちんと学校の行事を精選して見直すということが実はすごく大事なことですよね。例えば運動会は別に学習指導要領に定義されているわけでも何でもないのですが、地域の方、保護者も、旧態依然、昔からずっと日本式の学校教育の中で、皆さんのお声を聞くと必要だというふうに思われて実施しているのですが、最近少し変わってきたのがコロナの以降ですか、半日実施で給食を食べて少し物寂しいような気持ちになる場合もありますが、でもそれでこどもたちの平日頃の保健体育学習の成果発表ができて、しかも負担軽減等ができるのであればそれでよいことはないし、マラソン大会にとっても、学習指導要領のどこを見ても6キロ走れとかそんな項目は小学校も中学校もないのです。1キロにしる何にしる。もし万が一大きな事故につながったときは、その行事設定すら恐ろしい責任問題になってくるので、いつも昔からあるマラソン大会、根性論で私たちも何十キロとか何キロとか走ってきましたけれども、今それをやってこどもの心身を害するようなことがあると大変心配をしています。そういった意味で、文化祭だとか体育祭だとか遠足だとか家庭訪問、家庭訪問も大分見直されてきましたけれども、本当に必要なものって何かということで、学校自体がきちんとその学校の特色づくりを踏まえながらカリキュラムをもう一度練り直すということが、いま一度きちんと踏み込んでいく必要があるのかなと思うところが

市長 教育長	あります。 もう一つは、部活動等もそうなのですが、やはり教員自身がやらなければならない。こんなにすばらしい取組の資料を作ってくださったのですが、どうしても教員って、どんなに時間がかかって、どんなに時間超過しようが、こどものためなら何か分らないけれども喜びを感じながら一生懸命取り組んでしまうというところがあって、うちへ帰ってキュウリを台所で刻みながらずっと学級のこどもたちのことを考えているみたいな日々ってたくさんあったような気がするものですからそういった教員自身の意識改革というものもやはり研修等の中で行っていく必要があるのかもしれないと。それによって教育の質が落ちるということがあってはならないことだと思いますが、決して専業主婦のお母さんが子育てがいつもすばらしい、たくさんこどもに向き合っているからではないですよ。仕事をしているお母さんでもお父さんでも、こどもと向き合う時間が少なくても子育てはきちんとできているということを考えると時間の多さだけがよりよい教育ではないということは重々承知していますが、それでもやはり一つ一つ私たちが仕事の内容を見直すという視点で、教員自身もそういった研修を行う必要があるかなというふうにも感じていますし、学校全体の中でカリキュラムの見直し、それからPDCAで学校評価をするのですが、きちんとそれを公表していくのですが、学校評価の目標自身が本当に教員が、学校が行うべきことなのかなと思うような項目があるように私は感じていますので、統一目標等の評価項目もいま一度もしでしたら見直しをしていただけるとよいなと切に思っています。 以上です。 教育長、どうぞ。 行事の見直しというところで最近、そんなたくさんではないですけども、学校訪問に行っただけに耳にするのですけれども、例えば運動会とかが以前は1日やっていたのではないですか。教育委員がおっしゃったように、それを通してどういう力をつけたいかということで学校は精選したりとかというふうにしていくわけですけども、保護者のほうはなかなかそういう意識が伝わってなくて、昔みたいにお弁当を持ってきて1日やらせてもらいたいという、あのときはよかったというようなお話をされてくる保護者の方も結構いらっしゃるということで、なかなかその辺の学校が進めたいことと地域、保護者の方が学校に求める、要望するところがちょっとギャップがあったりするところがあるものですから、そこをどういうふうに埋めていくかということも一つこれを進めていく上での課題なのかなということを感じているところです。どうしたらいいかってなかなか難しいところではありますが、すみません、口を挟んでしまっ
-------------------	--

市長 教育委員	て。 適宜意見を言ってください。 今の話に関連しますが、やっぱり今後この計画を具体化するに当たって大事なことはコミュニティ・スクールだと思うのです。つまり運営協議会はどういうふうに育てていくか、あるいは利用するか、あるいはともにリンクしていくかということだと思うのです。苦情の件もそうですし、今の話のように父兄に伝えることなんかを具体的に進めるときに広報だけとか、あるいは先生と個人的な付き合いだけではなくて、コミュニティ・スクールの中でその議題を投げて地域の意見を持ってきてもらう。そういう使い方がきっとできるのではないかと。今までより違った方法として、そんな点で使っていただけたらいいと思います。ただし、それをみんな教頭先生に丸投げしては駄目です。教頭先生の負担になってしまうから。そこはさっきの話と同じ点になりますけれども、そんなふうに、6ページに書いてある、学校運営協議会における協議などを踏まえつつというところがありますが、ここはやっぱりゴシックで書いて、もう少し強く表現してもいいのではないかと私は思っています。 以上です。
市長 教育委員	ありがとうございます。 すみません。1つお聞きしたいのですが、次に80時間を上回るというところで一定数の数があるのですが、5ページのところにも1か月80時間を超える月が複数ある教職員に対して医師による面接を促すというふうに書いてありますけれども、この時間を超える以前に手を差し伸べる方法があるのかな。例えば一時的な行事によるものなのか、年間を通してなのか、単独の先生に限ったことなのかどうなのか。役割の負担がないような取組をしていただきたいなというふうに感じました。
教育委員	先ほどのお話の中で、私は部活動についてなのですが、学校の先生方の働き方改革において、子どもたちとの教育の大切さが部活動の中にはあると思います。それを外部委託するというのは賛成ですし、そうしてほしいという願いをしたいところなのですが、やはり学校サイドと保護者との温度差等があると思います。そこをどう埋めていくかによって、外部委託が早い段階で外部に渡せるのか。そうではなくて、なかなか外部に渡すことができないのかということも出てくると思いますので、今度の土曜日からですか、中体連が始まりますが、私も中体連の会場をちょっと回って保護者の様子とか、そういう子どもたちの様子を見てみたいと思います。そういうことを考えながら、今後外部委託を進めていただきたいなという要望になります。 以上です。

市長	ありがとうございました。まだまだこの議題1についてはご意見もあらうと思うのですが、時間の割り振りもありまして、時間の都合でこの程度にとどめておきたいと思います。
----	--

(2) 過小規模校の支援状況について

発 言 者	内 容 (要 旨)
市長	それでは、議題2として、過小規模校の支援状況についてであります。 人穴小学校の校長から人穴小学校の現状について説明をお願いいたします。
人穴小学校長	失礼します。本日は、お忙しい中、須藤秀忠市長様、望月俊伸教育長様をはじめとする多くの教育委員会の皆様、ようこそ人穴小学校へおいでくださいました。ここ、人穴小学校は、学校教育目標に、「自らをきたえ 共に生きる子」を掲げ、主体的に学び合う力を育み、ともに伸びゆく学校づくりを学校運営目標として、令和8年度をスタートしました。私は校長として、どうしたら子どもたちが主体的になって学び合う力を育むことができるだろうかを考えました。主体性を引き出すには相手意識を明確に持たせる必要があるのではないかと。関わり合う力を育むためにも、関わり合う機会を意図的に設けて関わり方を学ぶ必要があるのではないかなどと考えまして、まずは名前を呼び合うことと同じ釜の飯を食うということから今年度スタートしました。全校児童と職員の顔写真入りのワークシートを配って名前を書き入れる活動を行ったり、学習室をランチルームに改装したりしました。私の提案に乗ってくれた子どもたち、そして私の思いを形にしてくれた職員、20名の子どもと9名の職員は、毎日名前を呼び合って挨拶を交わしたり、一緒に給食を食べています。給食の時間には、誰かの誕生日をみんなでお祝いもしたりしています。とても楽しい時間が流れており、幸せだなと感じております。 さらには、「人穴小をもっと楽しくするために」というテーマで1年生から6年生までが全校話し合い活動を行い、自分たちの生活ルールを決めたり、イベントを開催したりして、子ども主体の活動を行っております。ある子から出された着替えをする場所が欲しいという意見を採用して、教材室を整備して更衣室を造ったりもしました。その子は自分の提案したことが形になっていくことがすばらしいことだという実感を持ち、主体性を高めています。令和8年度がスタートしてまだ2か月半ではありますが、このようにどの子どもどの職員も生き生きはつとつと教育活動に取り組んでおります。 ある先生が、小学校の先生の仕事は子どもたちの心に種をまくことだとおっしゃっていました。それと同様に、私は、学校は思い出をつくる場所だと思っています。令和8年度は、職員9名中、5名が入れ替わった人穴小ではあります。

	が、14名のもともと人穴に住んでいる子と6名の特認校制度を利用して通う子の計20名、さらにたくさんの思い出をつくっていきえるようにと考えております。先ほど申し上げましたが、令和8年度からスタートし、全校児童20名のうち、6名が特認校制度を活用しております。どの子も学校生活に慣れ、欠席はほとんどなく、毎日笑顔で過ごせています。こどもが人穴小に来てよかった、保護者が人穴小を選んでよかったと思えるよう、職員はチーム人穴となって日々の教育活動に取り組んでおります。 小規模校であっても、学校を運営していく上では大規模校と同様な校務分掌をこなしているわけですので、教師1人が担当する校務分掌というものは非常に多いです。特に校長と教務主任においては、それに加えて特認校制度についての問合せの対応や推進員とのやり取り、区長さんをはじめとする地域の方々との連絡調整、今後の人穴小学校の在り方についての話し合い等々を考えますと、業務量というものは確実に増えております。本校は、令和4年度をもって教頭職がなくなりましたので、校長は今、教頭職と兼ねて事務処理、施設管理、職員研修等を行っているという状況であります。これらについては、先日実施しました学校運営協議会においても、地域や保護者の代表、推進員とも情報を共有しておりますが、先ほど学校教育課長からの説明にあったとおり、令和8年4月14日に出されました富士宮市立小中学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画が働き方改革の一層の推進を図り、教職員の心身の健康と、働きやすさや働きがいを目指しているということを考えますと、今後特認校として人穴小の職員が背負っていく保護者、地域からの期待と業務量とのバランスというものをどう保っていくか、バランスを図っていくかという点で、そこが一番大きな課題であると受け止めております。 今後の見通しとしましては、3つのことに取り組んでいきたいと考えております。1つは、校長の学校運営ビジョンへの理解を、職員、こども、保護者、地域の方ととにかく対話を通して深めていくということ。2つ目は、教育環境を整える。整理整頓、探し物をしたりするような時間をとにかく減らして教育環境を整えていきたいなと思います。3つ目は、余白をつくることだと考えております。学校と教師の業務の3分類による業務整理、庁内会議の精選、資料の簡素化などを行い、月間の時間外勤務時間を全職員30時間以内を目指したいと思っております。ちなみに、今年度4月は35時間、5月は22時間が平均でした。ただし、校長、教務主任、事務職員については45時間を上回っていたというような状況であります。 こうした状況を鑑みまして、今後特認校を継続していく上でぜひお願いしたいなと思っていることがございます。それは、学校と教師の業務の3分類で、学校
--	--

	以外が担うべきことの部分に当たるかと思いますが、大きく分けて2つです。1つは、入学の条件に関することです。保護者の送迎というのは条件としてなっているわけですが、PTA活動への参加というものがこの学校に通ってやっていく上では重要な要素になってくるのではないかと思います。 また、特別支援学級からの転入ということが問合せであるわけなのですが、そういったことについても転入はできないよということの話であったり、それから小学校に上がる前に就学支援対象児童、療育センターとかに通っている子たちからの問合せもかなりあります。ここは特別支援学校ではないので、そういった子たちの要求についての一線を引くという部分で、そういったことで入学の条件というものを明記していく必要があるのかなと思います。 それから、もう一つは、人的支援をお願いしたいなと思います。こどもへの愛情にあふれ、勤務状況良好な教師の配置を今後もよろしくをお願いしたいと思っています。 それから、1年生が入ってきた場合、こども支援員さんをつけていただくと非常にありがたいなというふうに思います。 また、最後に、特認校制度の窓口を保護者の推進員さんが担っているわけなのですが、ここのところが学校も含めて、結果的には窓口は学校、教育委員会なので、窓口をどういうふうに持っていくかというところの組織づくりを進めていく必要があるのかなと思います。 長くなりましたが、以上になります。よろしくお願いします。 ありがとうございました。 これからの予定の進め方なのですが、今須藤校長から人穴小学校の現状についてのお話ございました。それについて10分ほど質疑をさせていただいて、それからまた教室を見学させていただいて、現状を見させてもらおうと。それでまた戻ってきて、それで今度いろんな御意見伺う、そういう手順にしたいと思っていますものですから御承知おきください。よろしくお願いします。
市長 教育委員	では、ただいまの人穴小学校の校長さんの説明について、何か御意見、御質問ありましたらお願いします。 ありがとうございます。特認校制度をスタートして、先ほど校長先生からお話お聞きしたように、やってみて初めてそこに問題点が見えてくるということは、それは見える化ではないのですが、よかったかな。ただ、その問題点をそのままにしておくということもできないので、今後その問題点をどのように解決していくかにかじを切ってやっていく、または教育委員会、または関係部署とも連携を取りながらやっていくという方向を今後見出していかなければならないかなというふうに感じました。

市長 教育委員	また、議題の中で業務改革というお話を委員の皆さんから御意見が出ていましたが、実際に今業務が結構逼迫していると。特に特認校という特殊なことを進めてく中で、そこに仕事量が増えてきているというのを聞いたときに、そこをどうするかということを踏まえて今後、地域と学校と協議を進めていく中で問題点というか解決策が見出せるかどうかというところは難しいところだとは思いますが、今のお話を聞きまして、問題点が明確になったということは大変よかったかなというふうに感じました。 以上です。 ありがとうございました。 では、続いてお願いします。 今の話をお伺いしまして、最初に名前を呼び合って、食を共にしてというところで、とても児童と向き合って生活をしてくださっているなというふうに感じました。ただ、業務内容に関してはかなり多くなっているというところで先ほどの改革の件が出てくるのかなというふうに思います。状況は学校運営協議会や保護者の方と共有しているということでしたけれども、保護者の方が主になってこういったものも作っていらっしゃるということですし、どの程度学校の中にその保護者の方が関わって役割を担っているのかなというところを知りたいなと思いました。
市長 教育委員 市長 人穴小学校長	ありがとうございます。 質問でよろしいでしょうか。 どうぞ。 現在、推進員さんは2名いらっしゃいます。1人は、昨年卒業した子の保護者でOGになります。そして、もう一方は現在お子さんが通っている保護者の方になりますけれども、そのお母さん2人が推進員として、こういったチラシ作りであったり、ホームページへの掲載であったりということを学校と相談しながら、こういった内容で載せていいかなということを確認を取りながら進めてくれております。
	一方、先ほどコミュニティ・スクールがという話がありましたけれども、学校運営協議会が今年度からスタートしたものですから、実は第1回が6月6日に行われたばかりで、そこには区長さんであったり、町内会長さんだったり、PTA会長さんだったりが入っております。その中にまた推進員さんも入っていただくという形で、特認校がスタートしたわけですが、こういった課題が見えてきますよということで、今後の人穴小学校な在り方としても、統廃合が進むときにどういうふうな方向でいったらいいのか、あるいは特認校を継続して、ここはここで単独で進めていくのか。そういった中でも、人穴の子たちよりも他地域の子

教育委員	たちのほうが大勢になってしまったりだとか、そういったときに人穴がこれまでやってきた集いであったり運動会というものの継続はどうなるかという、そういったものを含めていろいろコミュニティ・スクールの中で話をしていきたいと思います。ただ、継続する以上は、人穴のこれまでの歴史というか、積み上げてきたものを核として、そういったものを他地域から来ていただく方たちにも価値あるものとして学んでいただくという形で進めていくのがいいのかなということで、そういったコミュニティ・スクールの中に推進員さんに入っていて、みんなで考えていきたいと思いますという形でやっております。 今のお話でもありましたけれども、小規模特認校の制度の利用と、それから今教育委員会全体で取り組んでいます小学校の統廃合の話というのは、やっぱり切っても切り離せない問題だろうと思うのです。見方によっては、今までのような学区を守って議論しても成り立たない状況になっていると。ある意味、学区の流動化というのですかね、そういうことが起きている。そうしないと少子化に対して対応できないという現実がもう迫ってきているというふうに思われます。そういう中では、人穴小学校のPTAを中心にしたサポーターの皆さん、あるいは学校当局の校長先生以下皆さんの努力だけに任せておいていいのかという話にもなると思うのです。例えば今の話、校長先生の話ありましたけれども、具体的に窓口をどうするのかという話で組織化という言葉を使っていっぱい使ったけれども、例えば富士宮市の小学校全体に対して特認校のような特徴を持った教育ができるようなシステムをつくっていく。そのためには、特認校の窓口は教育委員会の組織の中につくると。各学校に任せないで、窓口は教育委員会が担うというようにことも一つの方法ではないかなというふうにも考えられます。つまり人穴の努力を統廃合の問題をかぶせて、せつかく複式を解消する方向に向かっていくのに、その努力が生きないような形になってしまっているといけないと思うのです。そういう意味では、一つの小学校の責任において任せるのではなくて、教育委員会全体として、市全体としてどれをどう取り扱うのかということを考える時期になっているなということを感じたところです。どのような方法がいいのかについては私自身まとまっていませんけれども、ぜひまた教育長を中心にそういった議論をさせていただきたいというふうに思います。
市長	ありがとうございました。 それでは、続いてお願いします。
教育委員	校長先生は、令和4年の最後の教頭先生でいらしたという認識でよかったですよね。本当に望まれてこの地にまた改めて赴任して、地域の人々との関わりも非常に密で、よい校長先生としていろんな声に耳を傾けながら学校運営ができということでとても喜ばしく思っているのですが、今年度コミュニティ・スクール

	を始めてというふうにお話を伺ったのですが、西富士中学校に私も赴任していたので、土日含めて。この地域は入植歴史文化があって、牛魂祭等に土日呼ばれて牛の御魂を、命をいただいているということで、お坊さんが来てお線香をあげて、その後なおらいをしてなんていう文化が残って、そこで芸能披露があってという盤石なコミュニティが既にあるわけです。それを、今お話をしてくださったのですが、コミュニティ・スクールが基盤となってということは本当に大事なことで、その中心にある学校をいかに地域の人が大切に思っているかというのはひしひしと感じていらっしゃるのではないかなというふうに思いますので。また、今赴任して、お感じになっている保護者の方々のお声というのはどんなものか1点だけ。
人穴小学校長	この間の学校運営協議会の中でも話は出たのですが、断固統合に反対だとはみんな思っていないのです。ただ、特認校制度としてこうやってスタートしたからにはある程度この学校のよさというものを、思いをちゃんと残して継承したいというのがありまして、他地域の子たちが多くなっても、それでもやっぱり人穴小としてやっていきたいというようなことは、保護者会が別で臨時に開かれまして、私たちは知らなかったのですが、現在の保護者の中では、もしそうなったとしても、できるだけ特認校制度を利用して、ほかの子たちを受け入れてやっていきたいという思いが今は強いというような状況です。
教育委員	ありがとうございました。また後ほど。
市長	それでは、校長先生ありがとうございました。先生方ありがとうございました。これで移動しまして、教室の授業の様子を見させてもらって、また戻ってきて、そして最後の締めくくりをしたいと思います。よろしくお願いします。
	<u>(移動 教室(授業) 見学)</u>
市長	それでは、ただいまは人穴小学校の複式学級の授業の様子を見させていただきましたが、皆様の御意見、御感想をお願いしたいと思います。
教育委員	ありがとうございました。授業の様子見て、教員の大変さを皆さんが感じられていらしたようですので、主体的に学ぶ姿勢が日頃から身につけていないと、教員だけの努力ではなくて子どもたち自身が今課題が何かということをきちんと認識して学習が進められているのだなというふうに感じました。6年生の児童が1人だったので、先生がいないときに何をしているのと声をかけたら、今何をすべきか、何を考えているかきちんと説明ができていたので、1人ですし、子どもたちの声が響くのですが、自分がやるべきことをきちんと意識して学習が行われていたのがすごいなというふうに思いました。どうしても国の基準があるので、教員の数を増やすわけにはいかないというのは分かっているのですが、やはり本当にその基準が今後もし緩むことがあったら、子どもの数が減っても

教育委員	教員の数が増えていかないのではなくて、今日も見て、できたら1クラスとか、1学年に1人教員がいたら教員の負担は減るのだろうなというふうに思ったので、市採用で教員を増やすなんていうところもあるようですけども、そういう何か工夫をしなくては、国が努力すべきところ、県が努力すべきところそれぞれあるのかなというふうに思っで見させていただきました。 先ほど校長先生の御説明の中で、こどもたちの縦割りの旗もあったのですが、意見をきちんと採用して更衣室を造ったよなんていう説明があったのですが、こどもの声に耳を傾けて学校をよりよくするという取組はとてもすばらしいなというふうに思っていまして、こどもの権利条約等を批准しながらも、いまだに日本の中には女、子供が何を言うかみたいな考えが政治家の間でも残っているような気がするので、小さなこどもたちの意見に、あるいは弱者の意見に耳を傾けてよりよい環境を整えようとする、その人穴小学校の教員集団の姿勢もすごく今日は勉強になったような気がします。ありがとうございました。 コミュニティの部分については、コミュニティの力をさらに充実したものにして、特区申請については富士宮市が注目しているだけでなく、全国もやはり注視しているところだと思うのです。統廃合が全国的な課題だと思いますので、ぜひまたこれからいろいろ保護者と一体となって、よりよい学校づくりに努めていただけるとうれしいなと思います。ありがとうございました。 ありがとうございました。 ありがとうございました。先生の負担というのは半端ではないなということを感じたところです。そういう中で、我々は複式学級の解消を目標にして統廃合の議論を進めてきているわけですけども、今の話にありましたが、1人クラス、今回6年生が1人という。複式にしたにしても、1人で学習することと2人以上で学習することは全く違うというふうに素人でも分かるのですけれども、複式学級解消もさることながら、学年1人という、それを解消することも大切なことではないかなということを感じました。これについても、恐らく文科省ははじめ方針がどこかで示されていると思うのですけれども、もし分かりましたらぜひ教えていただきたいというふうに思います。 それと、図工の時間を見せてもらったのですが、最近はべたべたするのりは使っていないのですよね。今回の授業だけかもしれません。セロテープで貼ることをやっていたし、はさみは各自使っていましたが、ホチキスは先生が管理していると。危険性があるので、そんなふうになさっているのかなというふうに思うのですけれども、行き届いた対応をしていることが分かりましたけれども、随分さま変わりしているなという感じ、僕たちの時代と、あるいは自分のこどもたちの時代と変わっているなということを感じました。
------	--

市長 教育委員	以上です。 ありがとうございました。 先に、先ほど校長先生もおっしゃっていた一人一人の名前を呼ぶことと食事をする、給食をみんなで一つの部屋で食べているという環境もすばらしいなというふうに思いました。写真も皆さんの写真が飾ってあって、誕生日を祝っている風景が頭に思い浮かぶような感じがしました。 授業に関してなのですが、皆さんおっしゃっていたように、複式の授業があんなにも先生方が大変なのかということを改めて知ったというところなんです。2学年、指導案なんかも時間帯を配分しながら指導案を作っているというので、先生もかなり頭をフル回転しながら1時間の授業の中でも取り組んでいらっしゃるのだなというふうに、かなり負担があるのではないのかなというふうに感じました。授業だけではなく、その他の業務もあると思うので、やはり先ほどの内容に関わってきますけれども、なるべくうまく業務が振り分けられるようにとか、少なくなるようにとか、そういった取組をいただけたらいいなというふうに感じました。 ありがとうございました。
教育委員	ありがとうございます。今日見学させていただいて、こどもたちの授業を見せていただいた中で、こどもたちの笑顔というのはこの学校も同じだということを改めて感じました。ただ、その授業を教えている先生方、教諭の負担については、初めて複式学級の授業を拝見して、ここまで大変だということを改めて認識したところです。あと、先ほどのときにもお話しした環境のすばらしさという中で、外の芝とかいろいろ目に入ってくるところ、本当によく整備されて、先ほど校長先生にお聞きしたら、先生を退職なされた方がここに来てやってくさっているのですよという話を聞いたところ、学校というのは、先生方、地域、そしてそれを取り囲むいろいろな方々が支援してくださって一つに成り立っているのかなというのを改めてまた感じました。こういう定例会とかいろいろなところで学校というのはコミュニティの場所であるというふうに何回もお話が出ていますが、人穴小学校にお邪魔させていただいて、それを再度認識したところです。
市長	以上になります。 ありがとうございました。 それでは、時間まだあるのですが、こころで締めまして、最後に教育長からお願いいたします。
教育長	この会議が始まる前に教育委員さんと高校の再編ということが話題になって、6月5日に富士宮市内の県立高校4校で合同体育祭を開いたということで私見

に行ったのですけれども、こどもたちと生徒たちがすごく生き生きと目輝かせながらやっていたのはすごく印象的だったのです。中心となって進めているのは北高の小谷校長先生が、当然これからの公立高校再編ということも見据えてということでそんな取組をしているわけですが、これ静岡新聞ですが、その校長先生のコメントが再度載っていたのですけれども、こんなことが書かれていました。生徒が船出する社会は、気が合う人とだけ一緒にいられる空間ではない。学校の枠を超えて多くの人に出会い、自分の成長に何が必要かを考えるためには集団の確保や学びの選択肢が必要だということが書かれていたのです。そのコメントと、今日人穴小のほうに伺わせていただいて、小規模特認ということの視点で見たときにメリットとしては、地元ではないような子たちが来ることによって、多様なこどもたちということで、その多様な価値観に触れることができるということがメリットかなというふうに思っています。さらに、その先に複式解消につながれば、本来だったら今回1年生がそれだけ入らなければ、1、2年生の複式みたいな形になったところを1年生も2年生も単級という形が取れたということは複式解消につながったということのメリットかなというふうに思っていて、それによって先生たちの当然、もしかしたら1年生、2年生で複式をやるというのと単級でやれるというのは全然やっぱり負担感が違ってきますので、そういう意味では小規模特認が複式解消につながって先生たちの負担軽減にもつながると、先ほどの業務量管理、実施計画ともつながってくるのですけれども、そういう環境が設定できればメリットかなというふうに思っていて、逆にデメリットというところで考えると、ほかから来るというのは諸刃の剣なのですけれども、冒頭、校長先生のほうからPTAの方の活動なんかも協力していただきたいというのを条件に入れてもらいたいというお声もありましたけれども、いろんな地域から来ていますので、こどもたちもそうでしょうし、親御さんの考え方も違うという中で、これから継続していくということはそういうこどもたち、保護者の方が年々増えていく。もしかすると地元の子たちよりも、そういうほかから来る方のほうが多くなっていくという状況があったときに存続すべきかどうかというのは今後の課題だと校長先生もおっしゃっていましたが、やっぱり保護者のより一層の学校への協力とかまとまりだとかというものがこれから小規模特認を進めていく上での、こどもたちだけの問題ではなくて、そういうことも考えながら継続するのか、ここまでというふうにするのかということは、地域、保護者の方とも含めて進めていってほしいなというふうに思っています。

昨日、学校の再編計画の策定委員会が第1回目開かれまして、そこで冒頭の挨拶で、これから進めていく上では、平たんな道ではなくて、たくさん障害があってそれを越えていかないと再編というところにつながっていかないだろう。た

市長	だ、そういうときによりどころにしてもらいたいのは、この計画というのは、やっぱり一番は富士宮の子どもたちにとってよりよい計画になってもらいたい、それが一番のよりどころにしてもらいたいということをお話をしました。昨日は言わなかったし、いろんなこどもの未来を考える協議会みたいなところでも話はしていないのですけれども、私がもう一つ大事にしたいのは、こどものよりよい計画であってほしいという次に来るものは先生方にとってよりよい計画であってほしいということが、保護者の声、地域の声よりも、私の立場的なものもあるのですけれども、そっちのものをやっぱり大事にしていかなければならないなということを考えています。再編の話で地域に出たときに、ある保護者の方が、こどもが1人になっても学校って存続できるのですねという話をしました。先ほど教育委員が、今日も6年生1人、あの状態ってどうなのかと言ったときに、1人解説というのはどうなのかって。できるかできないかといったら、できます。それはこども1人いれば、教員とか学校としては存続できるのだけれども、それが果たしてその子にとっていい環境なのかどうなのかというのは別問題ですよ。本当にそれを保護者、地域の方が望んでいるのですかって。こども1人で学校開設して、学校を残してそれがいいのですかというのは言いたいところですけども、でもやっぱりこどもにとってとか先生にとってと考えたときに、よりよい再編計画を策定していかなければならないなと。人穴小の小規模特認もそういう視点で考えていかなければならないなということは思っているところです。そんなことを今日の訪問で私自身感じました。これからは人穴小学校は、教育委員会としてもしっかり見守っていききたいなという思いでいます。 以上になります。市長、ありがとうございました。 どうもありがとうございました。皆さんからいろんな御意見いただきまして、そして大変参考になりました。しかし、今抱えている少子化の問題、これは避けて通れない問題で、また学校再編の問題についても避けて通れない問題であります。いい面もあれば悪い面もあれば、いろんなメリット、デメリットあると思うのですけれども、行政としても、また教育委員会としても、何とかしてこれをやり抜いていかなければ前へ進めないということもありますものですから、皆さん方の意見を参考にしながら、富士宮市のあるべき姿を追求していきたいと思っています。 最後に、私のほうからまとめをさせていただきます。本日、複式学級の授業の様子を拝見して、子どもたちが異なる学年の仲間と学び合う姿は非常に印象的でした。担任の先生が2つの学年の進度を巧みにコントロールしながら、子どもたちの主体的な対話を促す技術にも深く敬意を表するところであります。 一方、複式学級には教員の負担の大きさや、同学年の仲間と切磋琢磨しながら
----	--

	行事等に取り組むこと、集団活動が限られるといった面があることも伺っております。こどもたちの教育機会の均等と質の高い教育環境の確保は、行政としての重要な責務と思っております。今年度、教育委員会では富士宮市立学校再編計画を策定することになっておりますが、単に規模の適正化だけを急ぐのではなく、これからの富士宮市を担うこどもたちにとってよりよい教育環境が提供できるような計画にさせていただくことをお願い申し上げ、私のまとめの言葉といたします。 なお、本当に今日は、百聞は一見にしかずで、私も複式学級は初めて見させてもらって、いい勉強になりました。最近テレビで「ポツンと一軒家」というのをやっていますけれども、山の上から麓の学校へ行くのに1時間も2時間もかけて往復を、3時間、4時間ですね。そういう環境の中で育った昔の人たちは、体力的にも精神的にもいろんな苦難に打ち勝って、立派に育って生きてきております。そういうことを考えると、なかなかいろんな問題もありますけれども、やはりこどもたちにとってどうしたらいいかということを考えてやるのが私たちの今に生きる人間、また将来を担うこどもたちのためにやっていくことが使命ではないかというふうに思っておりますものですから、私たちも行政サイドとして頑張っていきたいなと思っています。 以上で本日の議題についての協議は終了いたします。よろしくお願いします。
--	---

3 閉 会 午前11時15分

発 言 者	内 容 （ 要 旨 ）
教育総務課長	本日は、長時間ありがとうございました。 以上をもちまして令和8年度第1回総合教育会議を終了いたします。 ありがとうございました。